

倭名鈔に、上野國郡名甘樂良加平とあるは、方今もカンラと呼びなれたれど、本義はカミラと呼べく

ぞおぼゆる、甘をカミと呼例ハ、甘南備山、甘南備河など、万葉中に多く見へたり、甘南備山ハ、神並

ミと呼ぶハ、吳轉音なり、欽明天皇紀廿六に備前兒島郡とも見へて、此備ハ吉備にて、酒實の義ナ

リ、此他万葉集卷廿七に可奈之備伊麻世、續日本紀卷十七に撫惠備賜事皇太神宮儀式帳に、

大御壽乎慈備給比、また五穀物乎慈、かく思ひとらる、ゆるハ、葦菜の介瀾羅より付ぞめし名と

備給部などミと訓べきものおほし、かき思ひとらる、ゆるハ、葦菜の介瀾羅より付ぞめし名と

おぼしければなり、抑葦菜にハ、薤蒜葱等の種類多しといへども、原ハ都て薤といふが、總名にて

有けるなるべし、略註さて上野國甘樂郡に出る冬葱ハ、比類なき名産なり、武藏の岩附、下野の筋

にハ比べがたし、殊に郡中西牧村に産るものを上品とすれば、國人ハ西牧葱と呼べども、此地ハ

下仁田驛の隣村なれば、他國人ハ下仁田葱と呼べり、か、れハ上古ハ此冬葱をも臭薤とハ呼べ

むからに、郡名としもなれるにぞあるべき、

〔上野國志甘羅郡〕今ノ村落百漆拾玖村、租入肆萬參仟玖佰漆拾漆石伍斗捌升肆合、

〔續日本紀稱德二十六年〕天平神護元年十一月戊午朔、上野國甘樂郡人中衛物部蜷淵等五人、賜姓物部公、

〔續日本紀稱德二十七年〕天平神護二年五年甲戌、上野國甘樂郡人外大初位下礮部牛麻呂等四人、賜姓物

部公、

〔日本後紀嵯峨二十二年〕弘仁四年二月丁酉、上野國甘樂郡大領外從七位下勳六等壬生公郡守、特授外從

六位下、以戶口增益爲民所懷也、

〔上野國志多胡郡〕今村落參什陸村、租入壹萬仟佰貳拾參石玖斗肆升貳合、

〔續日本紀元明五年〕和銅四年三月辛亥、割上野國甘良郡織裳、韓級、矢田、大家、綠野郡武美、片岡郡山奈等

六郷、別置多胡郡、

〔好古小錄金石〕上野國多胡郡碑、碑石高四尺、潤二尺、蓋方三尺、

弁官符、上野國片岡郡、綠野郡、甘良郡、并三郡内三百戶、郡成給羊、成多胡郡、和銅四年三月九日甲

多胡郡